



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

2017年度(第33回)の九州コロイドコロキウム

九州コロイドコロキウムの第1回は、九州地区のコロイド・界面化学に関わる研究者の方々の発案により、1982年8月に熊本県の火の国ハイツを会場にして開催されました。その後、九州だけでなく、中国や四国地区の研究者や学生も参加するようになり、1993年の第11回は徳島県の鳴門で、1996年の第14回は山口県の秋吉台でも開催されました。その後も、九州コロイドコロキウムは、コロイドおよび界面化学の基礎から最先端研究までを学ぶ談話会的なセミナーとして、ほぼ1回/年のペースで継続して開催されています。そして、2017年度は、今年の9月28日(木)～29日(金)に鹿児島大学郡元キャンパスの学術交流プラザで、鹿児島大学の新留康郎先生のお世話により、九州コロイドコロキウムが開催されました。

今回のコロキウムでは、1日目の午後から2日目の午前にかけてのプログラムの中で、特別招待講演および5件の招待講演がありました。

- ・(特別招待講演)金属ナノクラスターの溶液合成とバイオ・医療応用/川崎英也先生(関西大学)
- ・極細金ナノロッドの合成と特異な物性の解明/高畑 遼先生(東京大学)
- ・Silver Nanoparticles as Antibiofilm For-

mation Agents/Kuang Kyaw 先生(熊本大学)

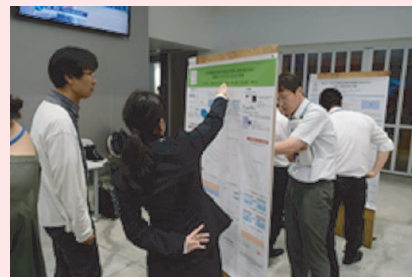
- ・ホタル生物発光の魅力/加藤太郎先生(鹿児島大学)
- ・代表的なマイコバクテリウム属細菌由来ミコール酸の単分子膜挙動と病原性についての考察/ヴィレヌーヴ真澄美先生(広島大学)
- ・局在表面プラズモン共鳴を示すコロイドの光散乱計算/田原弘宣先生(長崎大学)

講演では、金属ナノクラスター・ナノ粒子・ナノロッドの合成・物性・機能、金属コロイドの光物性、脂肪酸表面膜の複雑な状態変化などに関する貴重な研究成果を聞くことができ、さらに、コロイド分野から少し離れた内容でしたが、ホタルの発光反応で機能する触媒に関して(ホタルの生態も含めて)興味深い話を聞くこともできました。



また、招待講演の合間には6件の参加学生による口頭発表が行われ、日頃の研究成果の報告と活発な討論が行われました。さらに、1日目の17時から、23時

の学生によるポスター発表が行われ、その後、18時からポスター発表の会場と同じ会場で引き続いて懇親会が開催されました。そのため、食事等をしながら楽しい会話が弾む一方で、ポスターの前では依然として活発な議論が続いている風景も見られました。懇親会の最後には、ポスター賞の発表および授与式も行われました。



今回のコロキウムの参加者は、41名でしたが、その中で35件もの発表が行われ、参加者同士での研究成果の十分な意見交換の場として機能したと言えます。

今年度の活動予定

今年度(2018年度)の九州コロイドコロキウムは、9月25日(火)～26日(水)に、広島大学のヴィレヌーヴ真澄美先生のお世話で、広島大学にて開催されます。是非、興味のある方はご参加下さい。

<http://www.colloid.hiroshima-u.ac.jp/>

[2018年度コロイドおよび界面化学部会九州支部・支部長 池田宜弘(福岡女子大学)]

© 2018 The Chemical Society of Japan